

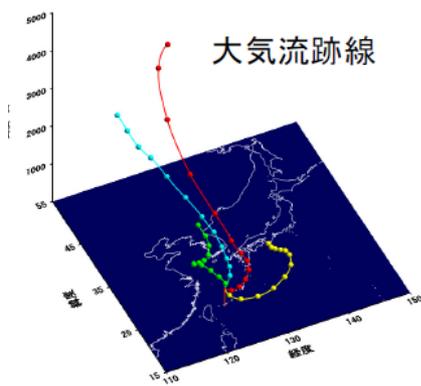
雨の科学 (担当 重 尚一・大沢信二)

定員: 4名

- 本課題では、理学部1号館屋上設置のレーザ式降水粒径速度分布測定装置で観測している雨滴の粒径分布が、雨の事例(台風, 夕立, シトシト雨, などなど)でどのように変化するのかを調べる。プログラムを作成して観測データを解析するとともに、解析結果を解釈するため、他の既存データを解析したり、関連する英語文献の輪読を行う。
- また、昨年までに雨滴を採取して調べた雨の化学的特性(水の同位体や塩分)を生み出すメカニズムについて、後方流跡線解析などを用いることによって考察する予定である。



理学部1号館屋上設置の
レーザ式降水粒径速度分布
測定装置



国立環境研究所地球環境研究センター
METEXの後方流跡線解析

http://www.nies.go.jp/event/sympo/2007/poster/pdf/presentation_4.pdf